

【生薬名】 竜眼肉 *LONGANAE ARILLUS*

【起源植物】 リュウガン *Euphoria longana*



【科名】 ムクロジ科 *Sapindaceae*

【別名】 龍眼(ろんがん)、龍眼一名益智。

【薬用部分】 仮種皮

【主成分】 糖質、有機酸、フラボノイド、アミノ酸誘導体

【薬性】 気味は甘温、帰経は心脾に属す

【効能】 ●補心安神・補脾養血

●物忘れや不眠症、神経興奮状態、病後の衰弱に

竜眼肉 1日10g を水400mlで煎じ2~3回に分服する

●体力のない老人、虚弱体質に8~10gを同様に煎服する

●単独で使用しても力が弱いので他の補血薬と併用する必要がある

●竜眼肉は味甘く和かで脾経に入りその効は大棗に勝る。潤いがあって味が厚いので大いに陰血を補う。

●失血の後に用いる帰脾湯はこれと大棗を配し、蓮肉や茨実と同様、補陰を補い痺を盛んにして血を統べる。神経衰弱で心経に血が少ないときは生地黄、麦門冬と共に用い心血を補養する。筋骨疲労で、肝が空虚の時は熟地黄、当帰を佐薬として肝血を培養する。心肺の火が盛んで、中満嘔吐があり、停飲のものはこれを忌むべきである。

【出典】 ●治五藏邪氣。安志厭食。久服強魂魄。聰察。輕身不老。通神明。  
(神農本草經上品)

●竜眼肉 味甘、帰脾、益智、健忘、怔忡、聰明広記。(薬性歌)

●五臓の邪氣に志を安じ、久服すれば魂を強くして聰明にし、身を軽くし、老いず、神明に通ずる。(名医別録)

【備考】 ●大粒を虎眼、中粒を龍眼、小粒を人眼、最小粒を鬼眼、龍眼の核肉を去ったものを桂圓肉と呼び、特に桂圓肉は食剤に利用する

【処方例】 ●帰脾湯、加味帰脾湯